



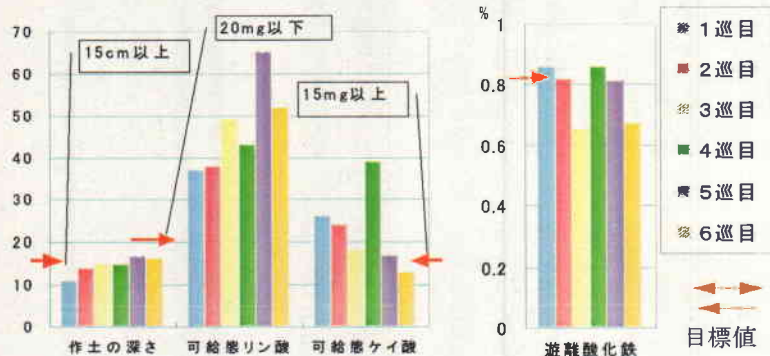
徳島県の農耕地土壌の実態

(2008年版)

農業研究所では1979(昭和54)年から5年ごとに〔1巡目(1979～83), 2巡目(1984～88), 3巡目(1989～93), 4巡目(1994～98), 5巡目(1999～2003), 6巡目(2004～2008)〕, 県内240地点の水田, 普通畑, 樹園地の土壌の実態調査を実施し, 作土の深さや土壌中に含まれる肥料成分などの分析を行ってきました。今回は地目別に1～6巡目で重要な調査項目や変化の大きい項目について平均値の推移を紹介します。

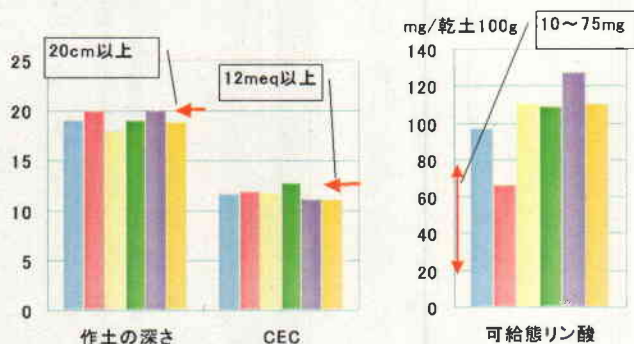
① 水田

作土の深さは4巡目まで目標値(15cm)を下回っていましたが, 5巡目以降目標値を上回っています。可給態リン酸は目標値を上まわっています。可給態ケイ酸や遊離酸化鉄は減少の傾向です。



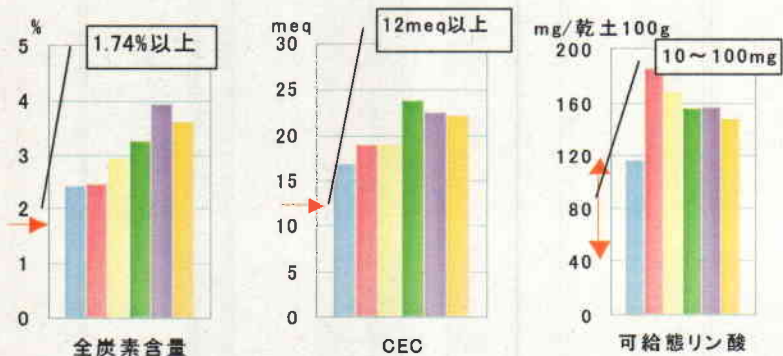
② 普通畑

作土の深さはほぼ目標値を維持しています。陽イオン交換容量(CEC)が診断基準値(12meq以上)を下回っています。可給態リン酸含量は5巡目に比べ減少しましたが, まだ目標値を上回っています。



③ 樹園地

増加していた全炭素含量(有機物含量)は6巡目で減少に転じました。CECも5巡目以降減少傾向ですが, どちらも目標値を大きく上まわっています。可給態リン酸も減少傾向ですが, まだ過剰気味です。



土壌診断を実施して適切な肥料や資材の施用に努めましょう。

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター

農業研究所

生産環境担当

TEL (088) 674-1660

FAX (088) 674-3114

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>